

SSKP

<精神に障害のある方の気軽な相談場所・交流の場>

地域生活支援センターあさやけ通信「風」 3月号

社会福祉法人 ときわ会 地域生活支援センター あさやけ



〒187-0031 小平市小川東町 4-2-1 「小平元気村おがわ東」1 階
TEL (相談用) 042-345-1741 (事務用) 042-345-2077
FAX 042-345-1734
E-mail kaze1741@asayake.or.jp
ホームページ <http://www.asayake.or.jp/sien.html>



国が再挑戦の施策を発表 ～精神科病院の長期入院者3万9千人減を目標～

1月10日の新聞各紙で、精神科長期入院者の退院促進の取り組みが行われるという記事が掲載された。

厚生労働省の報告によると、我が国の精神疾患を持つ患者は平成26年現在で約392万人であり、平成23年の約320万人と比べて増加していることがわかる。このうち精神科病院に入院している患者は28万9千人であり、平成23年の29万3千人と比べて小幅な減少にとどまっている。入院患者のうち約16万4千人が統合失調症で、認知症が約5万3千人となっている。通常在院日数は、約280日（平成23年は、約298日）であり、依然として先進国の中では長いままである。

今回、国が発表した長期入院者の地域移行対策として、「平成32年度までに、1年以上の長期入院者18万5千人のうち3万9千人を地域に退院させる」という数値目標を掲げた。国は以前にも長期入院を減らす目標値を掲げてきたが、達成されていなかった。

具体的な対策の1つとして、地域に少人数で生活するグループホーム等の整備を図っている。精神疾患の方が利用するグループホームは4～5名の入居者に1人のスタッフの配置、民間のアパートを借りて運営しているところが多い。スタッフの勤務時間は午後から夕方に充てているところが多く、夜勤体制がないため夜間はスタッフが携帯電話を持って対応している。都内のグループホームは入居期限2～3年とする通過型グループホームが多いため、グループホームのスタッフが退去した方にその後の生活支援を継続して行っていることも多い。入院者の高齢化が進み、過半数が65歳以上になっているため、地域生活において身体的・医療的ケアも必要になることを考えると、現状のグループホームだけで生活支援をしていくことは難しく、財源の確保や精神科病院の協力が必要になるだろう。また、アパート等の賃貸住宅に退院する患者も多く、不動産屋や家主、近隣住民の理解も不可欠である。

退院して地域で生活していくためには、緊急時に対応してくれる身近な医療や困った時に話ができる支援機関も必要であり、日頃から孤立しないで生活できる見守り支援等のシステム確保が望まれる。



支援センター活動報告

節分の豆まき

2/3 に節分の豆まきをしました。メンバーに鬼役をお願いして、鬼に向かって豆を投げて厄を払い、交流室の中に豆をまいて福を呼び込みました。残りの豆は、自分にも福がくるようにみんなで食べました。



1月メンバー学習会「地域の作業所を知ろう！」の報告

1月28日の学習会では、支援センターと同じ法人の作業所であるサングリーンのスタッフと利用者さんをお呼びして、活動内容などを話して頂きました。

サングリーンは、精神の病気をもちの方が利用できる作業所で、縫製・調理・石鹸作りの3つの班に分かれて活動しています。通所日数もそれぞれのペースに合わせて相談にのってくれるそうです。作業所全体でのレクや宿泊旅行など余暇の活動も盛りだくさんでした。また、希望する方には、就労支援も行っています。

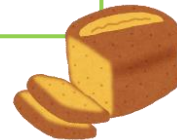
学習会に参加しているメンバーも興味深々で、質問も出るほどでした。



サングリーンを利用している永倉さんからの発表もありました。



サングリーンで作っているジャムとクッキー！この日はパウンドケーキの試食もしました。



支援センターのお知らせ

2月風の会のお知らせ「今年度のあさやけの活動をふりかえろう」

日時：2月28日（火）午後3時～午後4時

場所：支援センターあさやけ交流室

内容：今年度のあさやけで行ったプログラムや交流室についての振り返りと来年度のあさやけの活動についての意見をお聞きます。是非ご参加ください。



地域のおしらせ

劇団ダシマキタマゴ 第三回公演

18560:普通

日程：2月25日（土）～2月26日（日）
開演：2月25日 午後5時
2月26日 午後1時
（開場は開演30分前）
会場：立教大学新座キャンパス
ユリの木ホール ステージボックス
料金：無料



僕は大学2年生の頃、統合失調症という病気で入院していました。入院するときにバーコード付きのリストバンドを付けます。その数字が18560でした。そのリストバンドで入院しているのだと実感しました。

退院後に自分が統合失調症だと思えることができました。そう思うことができなかつたら、今でもあまり統合失調症は良くなっていなかったかもしれません。自分の意識を変えることはとても難しいことです。しかし、この舞台を作ることですれでも新しい意識が生まれたらと思います。

演出 加藤幹人
（演出を手掛ける加藤さんはあさやけのメンバーです。）

国立精神・神経医療研究センター病院家族会「むさしの会」

2月例会のお知らせ

日時：2月25日（土）午後1時～午後4時半
場所：国立精神・神経医療研究センター中央館
3階コスモホール
参加費：200円（当事者の方は無料です）
問合せ：むさしの会 会長住本知子
TEL/FAX 042-572-6028



【タイムスケジュール】

午後1時～ 講演会「精神障害者の生活保障
～年金を中心に～」
講師：岡田治 先生
（社会保険労務士 立川家族会麦の会副会長）
午後3時半～ 懇談会

小平市長選挙立候補予定者 からお話を聞く会

日時：3月27日（月）午前10時～11時半
場所：福祉会館第一集会室
定員：84名
申込：不要（当日会場にお越しください。）
内容：4月9日の小平市長選挙に立候補予定の方々に「障がい者が暮らしやすい小平にしていくなには何が必要とお考えか」について意見を伺います。

※ご不明点があれば、支援センターあさやけまでお問い合わせください。



第21回 澄水園セミナー

日時：2月25日（土）午後1時半～3時半
場所：澄水園3階 集会室
参加費：無料
講演：「地域とつながる～知っておきたい福祉・障害のこと～」
講師：伊藤浩 氏
内容：障害とは何か、障害者に対する支援はどのように行われているのか、地域とどのようにつながっていくのかについて
問合せ：澄水園（042-346-7411）担当/近藤・島崎



講師：伊藤浩 氏
（社会福祉法人幸会 理事長）

神奈川県出身。大学卒業後、知的障害者の支援に携わる。大学院に進学し、知的障害者のADL（日常生活動作）と認知機能との関係について研究。その後、支援員に対する研修の講師や、支援のアドバイザーをする一方、ダウン症候群の急激退行についての研究を続けている。

地域生活支援センターあさやけ

精神に障害のある方の気軽な相談場所・交流の場

<開所時間> <相談> / <交流室>
 月～金 午前10時～6時 / 12時～6時
 土 午後12時～午後6時
 日・祝日 閉所

2017年3月

月	火	水	木	金	土	日
		1 職員会議のため 閉所	2	3	4	5
6	7	8 女性のための …書道	9	10 ㊦ 今日の料理 ゆうごはん	11	12
13 ㊦ カレータ食会	14	15 ガールズデー	16	17 	18 サタデー ひだまり	19
20	21 	22 女性のための …書道	23	24	25	26
27 ㊦ カレータ食会	28 ㊦ 今日の料理 ひるごはん 風の会& メンバー学習会	29 ガールズデー SST 障害年金について知ろう!	30	31		

プログラム ㊦マークのものは事前予約が必要です。

<通常プログラム>

- 風の会&メンバー学習会 ・3時～4時
- 女性のための書道 ・10時半～12時
- 女子会 ・10時半～12時
- ガールズデー ・10時半～12時
- ピアサポート～なかま会～
- SST ・4時半～5時半
- 今日の料理 ひるごはん ・10時半～12時半
- ゆうごはん ・3時半～5時半
- カレータ食会 ・5時～6時

- センターの活動報告、テーマごとの学習・ミーティング。参加費50円。書道とお茶会。女性メンバーが集う場
- ㊦2か月に一度(偶数月)。ガールズトークが楽しめる茶話会。参加費100円。交流室を女性限定で開けている時間。テーマに沿って、なかま同士が気持ちや体験を語る場。みんなでゲームをしたり、困ったことを話し合えるプログラム。
- ㊦参加費300円。調理・片付けの自炊の練習。
- ㊦参加費300円。主にカレーを食べながらの交流室食事会。

<自主プログラム・家族グループ>

- 英会話 ・2時～3時
- サタデーひだまり ・1時半～4時
- けやき会家族相談会 ・1時半～

- 登録者Mさんと、わかりやすい教材等を使い楽しく英語を学ぶ。元気村2階第二会議室。一杯100円で飲み物にお菓子も付きます。家族のための相談・学習の場。6・10・12・2月の第二土曜日。